ユリルラリガ
C102会場限定ラクガキ本だったかもしれない本
FOR ADULT ONLY
SM調教プレイ快楽に
ハマってしまったスカサハ師匠

肉便器調教にハマってしまった
スカサハ師匠は今日も調教して欲しいとオレの所に…
それも肛門を躾けて欲しいらしい♪
ムワァ～♥
「なぜか…またアソコが疼いてしまってな…
鍛錬にも身が入らないらずで……
困った体になってしまったものだ…」
照れながらそんなこと言いつつ
師匠のおマンコも肛門もすっかり
準備できてるみたいで
股間からはムワりとイヤらしい匂いが
漂い始めていた♪

「じゃあまずは玩具でほぐして行きますね♪」
「あ…っ❤」
「ああぁあ…❤」
「んあああぁああっ❤」
「気持ちいいですか師匠？」
「いッイイッ❤❤」
何度も何度もおもちゃを出し入れする
それと同時に、尻穴の方は柔らかく吸いつくような動きで伸び縮みしてヌッポヌッポと厭らしい音を立て始めた

ならばとオレは
師匠のバックに周り
チンポでさらに激しくかき混ぜる
ことにした
あぁっ
ぎゅぅ
ぎゅぅ
ぐにぃ
ぬぷぷ
ああっ！？
「おちんちんっ❤ 来た❤❤」
ずぶぶぶぶっ…っ
ひく
ひく
どわ
どわっ❤
あ…
はっ
はっ
「あぁ❤あぁあっ❤❤」
ぶぢゅ
ぶぢゅっ
ぶぢゅっ
ぶぢゅっ
「あっあああぁ❤❤おっお尻ぃぃ❤❤」
「壊れっ……❤あはぁっ❤❤❤奥凄いぃぃあぁぁっ❤❤❤」
「おおぉっイ…ッ❤ も…もう…いッ…く❤❤」

「あと1時間は逝ったら駄目ですよ
もじ逝ったら罰ですよ」
一時間
「ひっ…ひひりかんッッ！！？」
「ふぐぅう…む…むひぃだ…
そんなにたへるらんて…おおぉ❤」
「なら奴隷豚みたいに
ブヒブヒ言いながら
なら特別に一回逝っても
いいですよ♪」
豚
「ぶっぶら！？」
「それが嫌なら
我慢ですよ師匠♪」
「うぅううぅううふぅふぐぅっ
あっおおぉおあおお❤❤イ
いいぐぅうぅぅうぅあああ…っ」
「ブヒィィイイ❤ブヒッ❤❤
ブヒブヒぃ❤❤ブヒィィイイイ❤❤❤
イグゥウウうぅぅうあぁぁあぁ」

ボッ
ズルルッ!
はぁっ♡
はぁっ♡
はぁっ♡
あぁぁぁぁぁ♥
プシャシャ
ぢゅぢゅっ

「はぁ…はぁ…はぁ……♥」
その後 何度も絶頂した師匠は
幸せそうでした♪

ムリ〜
ぶるぶる
ぶるぶる
ドキ
ドキ
ドキ
ぶるぶる
ぶるぶる
ぶるぶる

ぶぶぶ
ぐぐっ
ぐぐっ
ぐぐっ
プルプル
どくっ
どくっ
どくっ
あっ
あ
あ
ぐぎぎ
ぐぎぎ
ぐぎぎ

あぁっ
ぎゅ
ぎゅ
ぬぷぬぷ
ぐにぃ
ずぶぶぶぶっ…っ
ひく
ひく
どぉ
どぉっ♥
あ…
はっ
はっ
はっ
ぶるん
ぶるん
ぶるん
ぶぢゅ
ぶぢゅっ
ぶぢゅっ
ぶぢゅっ

パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ぶび
ぶび
ヴィィィ
はっ
はっ
はっ
びくんっ!!
びくびく
ズボッ
ズボッ

ズボッ
ズニュルルッ!
はぁっ♡
はぁっ♡
はぁっ♡
プシャシャ
ぢゅぢゅっ

ぶぴ…
ぶぴぴ
ぶくぶくぶく
ドロボ〜〜〜♥
はぁ〜〜〜♥
はぁ〜〜〜
ぶくぶくぶく
ぶぴ…
ぶぴぴ…
ドロドロ…